

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

授業者 4年2組 小林 直登

1 単元名 「山中湖たんけんたい」

2 単元について Plan

(1) 単元の目標

「富士山」に関する調べ学習や体験を通して、富士山周辺の自然や文化に関心をもち、自分で調べた知識をもとに課題の設定や解決を図り、学んだことを発信していこうとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
◇知識を広げたり、深めたりすることができる。 ◇コミュニケーションの方法やツールを活用する技能を身に付けることができる。 ◇課題解決の方向性や価値を見出すことができる。	◇自ら課題を決定し、解決に向けた計画を立てることができる。 ◇資料を活用し、情報を集め、整理・分析を進めることができる。 ◇まとめや表現の方法を工夫することができる。	◇主体的・協同的に課題解決に取り組むことができる。 ◇互いのよさを認めながら、自分の考えを交えて伝えることができる。 ◇学んだことを積極的に発信することができる。

(3) 単元の設定理由

本学年の児童は、3年生の総合的な学習の時間で、「南長崎の町自慢について調べよう」の学習を行っている。地域の人たちの話を聞いたり、施設を訪問したりするなどして、自分たちの住む地域について親しむことができた。

4年生の学習では、研究主題「自分・ふるさと・世界をつなぐ学びの探求」から、自分たちの住んでいる国に視点を向け、世界遺産である富士山の自然や文化について調べ、その価値を発信する意欲をもたせていきたい。

3 児童の実態

山名湖移動教室では、児童にカメラを用意することで、記録を撮ろうと意欲的に調べ学習を行うことができた。しかし、グループでの話し合いになると自分の意見が上手く伝えられず、話し合いが上手くいかなかったり、活動の見通しがもてず時間配分が上手にできなかったりする児童が数人見られる。そのため活動がスムーズにいかないときがある。話し合いを潤滑に進めるために、発表を聞く視点や、意見をまとめやすくするために、思考ツールを用意する。

4 授業づくりの工夫 Do

(1) 参加しやすい学習環境づくり

【学びのユニバーサルデザイン～14の視点】 ○本単元の重点項目

参加	①リレーションづくり		
	②ルールの明確化		
	③刺激量の調整		
	④場の構造化		
	⑤時間の構造化		学習の流れの提示
理解	⑥焦点化		ワークシート
	⑦展開の構造化		
	⑧スモールステップ化		
	⑨視覚化		板書の工夫
	⑩身体性の活用		
	⑪共有化		
習得	⑫スパイラル化		計画的な授業展開
活用	⑬適用化		ポートフォリオファイルの活用
	⑭機能化		中間発表会の設定

(2) 考えを深める学習方略

【思考スキルと思考ツールの活用】 ○本単元の活用

思考スキル	思考ツール		思考スキル	思考ツール	
多面的に見る	X、Y、Wチャート くまで手チャート PMI	○	見通す	キャンディチャート フィッシュボーン KWL	
順序立てる	ステップチャート プロット図		抽象化する	ピラミッドチャート	
焦点化する	ピラミッドチャート		具体化する	該当なし	
比較する	ベン図		応用する	該当なし	
分類する	ベン図、座標軸		推論する	キャンディチャート	
変化をとらえる	表、座標軸、 同心円チャート		広げてみる	ウェビングマップ	○
関係付ける	コンセプトマップ、表		構造化する	プロット図、バタフライチャート、フィッシュボーン、ピラミッドチャート	
関連付ける	コンセプトマップ				
変換する	該当なし				
理由付ける	クラゲチャート フィッシュボーン		要約する	ステップチャート	
			評価する	KWL、座標軸	○

5 単元指導計画（20時間） Plan

過程	時	○主な学習活動	◇評価規準【評価の観点】
① 課題 の 設 定	1	「山中湖について」 ○山中湖からイメージすることをワークシートに書き、学級で共有することで山中湖の周辺にある物を想像する。	◇知識を広げたり、深めたりすることができる。【知技】
	2	○調べたい内容について考え、グループ編成を行う。 ・調べたい内容からグループ編成を行い、移動教室の行動班と連動させる。	◇課題解決の方向性や価値を見いだすことができる。【知技】
	3	○課題を決め、取材内容や本、インターネットで調べることを決める。	
② 情 報 の 収 集 と	4	○3年生に伝えたいことや伝える発表方法を決定する。	◇伝えたいことを効果的に伝えるための発表方法を選んでいる。【思判表】
③ 整 理 分 析	5 ～ 14 情 報 ・ 整 理 分 析	○課題について、インターネットや図書室で調べたり、移動教室のインタビュー内容や体験活動で学んだことを整理したりする。 ○課題について調べたことをグループごとにまとめ、発表練習をする。 ・発表相手のイメージを明確にする。3年生に向けて、分かりやすく伝えられているか確認させる。	◇グループで協力しながら、情報収集を行っている。【主】 ◇互いのグループの発表を聞き、3年生の立場になってアドバイスができる。【主】
	15 (本時) 16 整 理	○まとめたことをグループごとに発表し、良かった点をクラスで共有する。 ○気付いたことやアドバイスされたことをもとに、発表の仕方を改善する。	◇他のグループのアイデアやアドバイスをもとに、自分たちの発表を改善している。
④ ま と め ・ 表 現	17 ～ 20	○発表会の準備をする。 ○3年生へ発表会をする。 ○単元全体を振り返る。	◇調べてまとめたことを3年生に分かりやすく、移動教室が楽しみになるように伝えている。【思判表】

6 本時の学習（15／20時間） Do

（1）ねらい

○3年生への発表にむけて、相手のグループの発表を聞いて、良い点や改善点を見つけて伝えることができる。

（2）展開

過程	学習活動	◇【評価】 ・留意点
ふれる・つかむ（5）	1. 前時の発表の練習を振り返る。	・前時の学習から、改善した発表ができように助言する。 ・1時間の流れを掲示し、学習の見通しをもてるようにする
	2. 学習の流れ、めあてを確認する。 意見を伝え合い、3年生への発表に生かそう。 3. 発表のポイントを確認する。 ○3年生がワクワクするような発表をしよう。 ・資料の見せ方や説明 ・用語を分かりやすく言っているか ・話し方、言い方 など	
かんがえる・ひろげる（35）	4. グループ発表をする。 ・自分たちのグループの発表のポイントを伝えてから始める。 5. 聞いているグループは発表の良かった点、感想、改善点をワークシートに記入する。 6. 発表のポイントにあった意見をグループでまとめ、相手に伝える。 7. 発表グループと聞くグループを交代する。 8. クラス全体で、発表の良かった点を共有する。	・ワークシートには、発表のポイントや良かった点、感想、改善点の欄を用意し、意見を伝えるときに役立てるようにする。 ◇相手のグループの発表を聴いて、発表の内容についての良いところや改善点を見つけることができる。 【主体的に取り組む態度】 ・全体で共有することで、発表を聞けなかった班のことも知ることができるようにする。 ・各グループの発表で、良かった点のみを伝え合い、次時の発表改善に役立てるようにする。
まとめる・いかす（5）	8. 学習を振り返る。 ・3年生への発表に向けて、気付いたことや改善点をワークシートに記入する。 9. 次時の活動を確認する。	・他のグループの良さを取り入れたり、改善点を直したりしていくことを確認する。

(3) 板書計画

意見を伝え合い、3年生の発表に生かそう 〈授業の流れ〉 1、めあての確認 2、発表準備 3、グループ発表 4、グループ内で意見を共有して相手のグループに伝える 5、発表交代2にもどる 6、クラスで良かったところを伝え合う。 7、振り返り	各グループの伝えたいこと	共有したい良さ 資料 分かりやすい言葉
--	---------------------	--

(4) 課題設定の判断基準表（ルーブリック）Check

観点	主体的に学習に取り組む態度	授業者が想定する具体的な活動状況
レベル3	主体的・協同的に課題解決に取り組むことができる。	・相手のグループの発表を聴いて、発表の内容についての良いところや改善点を見つけることができる。 ・話し合いで、自分の考えをもとに相手のグループのメンバーとやりとりができる。
レベル2	主体的に課題解決に取り組むことができる。	・相手のグループの発表を聴いて、良いところだけでなく改善点を見つけることができる。 ・話し合いで、自分の考えを1～2回伝えることができる。
レベル1	主体的に課題解決に取り組もうとしている。	・相手のグループの発表を聴いて、良いところを1つ見つけることができる。 ・ワークシートに自分の考えを書くことができる。

(5) 児童の自己評価 Check

レベル	学習のふり返し
3	・相手の発表を聞いて、内容（富士山や山中湖の自然や文化や施設のよりくわしいこと・体験談）についての良いところや改善点（こうしたらどうかな・たとえば～するといいよ）をみつけワークシートに書いた。 ・話し合いで、自分の考えをもとに相手のグループとのやりとりができた。
2	・相手の発表を聞いて、よいところや改善点（こうしたらどうかな・たとえば～するといいよ）ワークシートに書いた。 ・話し合いで、自分の考えを1～2回伝えることができた。
1	・相手の発表を聞いて、よいところを1つは見つけ、メモをとることができた。 ・ワークシートに自分の考えを書くことができた。

7. 授業の改善の工夫 Action

(1) 個人への手立ての

評価の合致度	教材	場所	形態	時間	その他
教師の評価が高く 児童の評価が低い	当該児童から不十分だと思っている部分を聞き取り、その部分について教師が適切な評価を直接伝える。				
教師の評価が低い 児童の評価が高い	教師が当該児童へ、良い点を認めながら、改善すべき点に注目させ、まだ十分に伸び代がある部分を直接伝える。				
教師の評価が低い 児童の評価が低い	テーマを選択する段階から、個別に関わる。	教師の近くに配置する。	ペアでの活動を取り入れる。		児童が書いたものを具体的に褒めて自信を与える。

(2) 授業の改善案

教師と児童の評価	教材	場所	形態	時間	その他
レベル3が多かった	○	○	○	○	○
レベル2が多かった (レベル3に近づけるために)	○	○	ペア学習の時間を取り入れる。	アドバイスを する時間を増やす。	○
レベル1が多かった (レベルアップのために)	各時間毎に、めあてや評価の視点が示してあるワークシートを作成する。	いつでも友達と話し合える机の配置にする。	グループ発表ではなく、個人発表にする。	発表の準備時間と練習時間を増やす。	タブレット端末を活用した発表ではなく、模造紙や画用紙での発表にする。